

現職教育計画

～確かな学力と豊かな人間性をそなえた児童の育成をめざして～

本校では、「確かな学力と豊かな人間性をそなえた児童の育成」を教育目標とし、取り組んでいる。ここで示した「確かな学力をそなえる」とは、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得することである。そのために、個に応じたきめ細やかな指導を充実させたいと考えている。

しかしながら、個に応じた指導でつけた学力だけでは、他の学習場面や実生活で活用することには結びつきにくい。そこで、「豊かな人間性」を育む取組が必要であるとする。そのために、学習スタイルを工夫したり学習規律を身につけさせたりしながら学習集団の中で学び合うことも重視したいと考えている。

ここで示した「豊かな人間性」とは、相手の立場を理解し、思いやりをもち、共に生きることの大切さが分かる人間性のことである。この「豊かな人間性」が育まれた児童は、「確かな学力」をよりよく実生活で活用できるはずである。

以上に述べたように、「確かな学力」と「豊かな人間性」の両面から迫る実践を積み重ねていきたい。そして、これらを身につけさせるためには、学年の発達段階を配慮した継続的な指導や生徒指導、特別活動指導と連携した横断的な指導、保護者を巻きこんだ活動についても考えていく必要がある。

学校研究主題 「学び合い、高め合う子をめざして」

副題 ～「確かな学び」につなげる手立ての工夫～

重点1 課題に対して、一人一人に自分なりの考えを持たせる手立ての工夫

重点2 持った考えを広めたり、深めたりする手立ての工夫

1 主題について

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標具現化に向け、「確かな学力」と「豊かな人間性」の両面から迫る実践を積み上げていくためには、一人一人が学習に集中するとともに、学習集団で学ぶことのよさを生かすことが必要であると考えている。

学習集団で学ぶことのよさとは、友だちの思いや考え、活動の様子を知ることで、新たな気付きを得たり、学習内容についてより深く学ぶことができたりすることである。また、自分の思いや考えが友だちに受け入れられたとき、児童は、学習への自信や喜びをもつことができるとともに、学習意欲はより高まるに違いない。さらに、このように友だちと協力しながら学んでいくことで、他者を思いやる心、他者を信頼する心等が生まれ、「豊かな人間性」の育成にもつながると考える。

そこで、昨年度に引き続き、研究主題を「学び合い、高め合う子をめざして」と設定し、集団の中で学ぶことのよさを大切にしていって取り組んでいく。教師は、集団の中で学ぶことのよさを大切にするために、児童の姿を丁寧に見つめ、しっかり受けとめ、思いを引き出したり、思いをつなげたりしていくことが必要である。そのためにも、教師としての資質・能力の向上、即ち、「授業力向上」をめざし、実践を深めていきたい。

(2) 主題のとらえ

「学び合う子」とは、自分の思いや考えをすすんで表現する子、友達の思いや考えをすすんで聴く子、互いのよさを認め合う子であると考え。学び合う子は、教科の授業の中だけでなく、特別の教科道徳や総合的な学習の時間、特別活動、休み時間や給食・清掃など日常生活のあらゆる場面で培われる姿である。そのためには学習集団づくりの工夫が必要である。

「高め合う子」とは、一時限の授業の中で、自分の伸びを実感する子、学びの良さを感じる子、次の学習への意欲を持つ子と考える。高め合う子を育てるには、一時限の中で、考えの確かさや変容が実感できる授業づくりの工夫が必要である。

「学び合う子」と「高め合う子」の実現には、日々の積み重ねが大事である。また、「高め合う子」は、「学び合う子」が土台となって実現するものである。そして、「高め合う子」が実現したとき、新たな「学び合う子」の土台となるに違いない。つまり、両者は相互作用の関係にあると考える。

2 副題について

研究主題の「学び合い、高め合う子をめざして」に迫るために、一昨年度まで、副題を「「新たな気付き」を引き出す手立ての工夫」と設定し、研究を行った。「新たな気付き」を引き出すことができれば、児童は、学びの良さを感じ、次の学習への意欲を持つと考えたからである。国語科の授業において、課題に対して考えを持った児童から「新たな気付き」を引き出す教師の手立ての工夫のあり方を重点とし取り組んできた。その結果、学習課題や児童の実態や発達段階に応じて効果の大小があることや、どの手立てをどのようにとるかの吟味が重要であることが明らかになった。一方で、見通しと達成感のある授業を積み重ねていくことや基礎基本を押さえた指導、温かい人間関係を構築するために学習集団作りに課題が残った。

そこで昨年度は、基礎基本を押さえつつ、児童の「わかった」「できた」という達成感を「もっと知りたい」「もっと学びたい」という次への意欲につながる個々の学びを、学び合いの中で大切にしたいと考え、副題を～「確かな学び」につなげる手立ての工夫～と設定した。

しかし、コロナウイルス感染症予防による2か月間の休業やその後の予防策をとりながらの学校生活の中で、これまで同様のスタイルでの授業研究が困難となった。特に、学び合う場面での工夫や配慮が不可欠となり、新たな形態や方法での実践を行うこととはなったが、その中で有効な手立ても生み出されている（次頁【図1】参照）。

今年度、コロナ禍での授業研究が続くことが想定されること、その中でも「確かな学び」が重要であること、さらに「確かな学び」につなげる手立てを確固たるものにすることから、昨年度からの副題を継続して研究を進めたいと考えている。

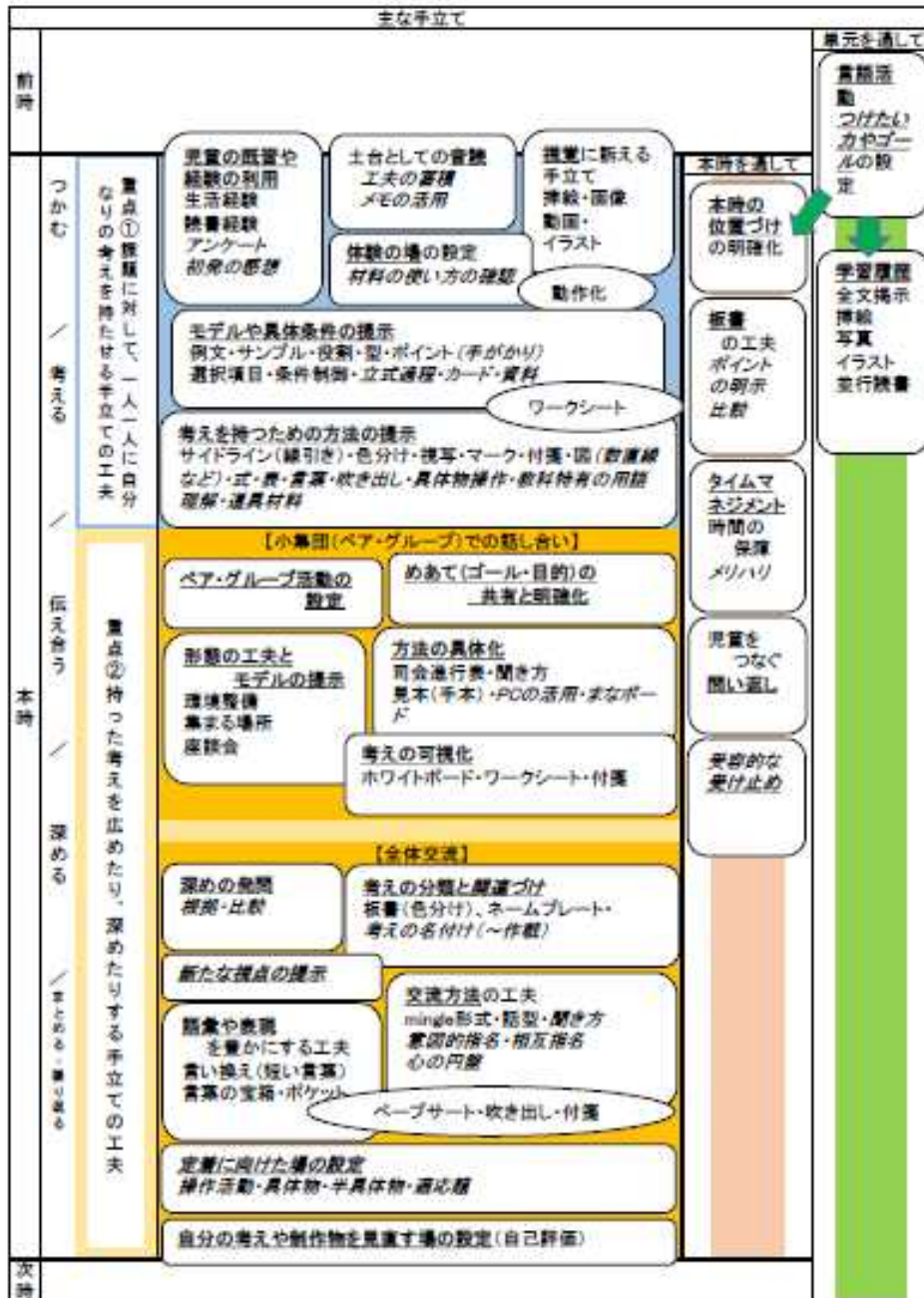
3 研究の重点

今年度も昨年度と同様の重点を設定し取り組む。「確かな学び」につなげるためには、一人一人が自分なりの考えを持つことと、持った考えを広めたり、深めたりすることが重要であると考えたからである。

昨年度は、**重点①**課題に対して、一人一人に自分なりの考えを持たせる手立ての工夫の取組は、多くの手立てが児童の実態や教科の特性に合わせた形でとられ、児童も自分なりの考えを持つことができるようになった。**重点②**持った考えを広めたり、深めたりする手立ての工夫に関しては、コロナ禍における工夫がなされつつあるといった状況である。今年度は、**重点①**の手立てを児童の実態と教科の特性に合わせてとることと同時に、**重点②**の手立てとしてどんなことができるのかを考え、取り組んでいきたい。

【図1】

研究主題「学び合い、高め合う子をめざして」
学校研究まとめ 副題～「確かな学び」につなげる手立ての工夫～に關わって



4 基盤となる日常的な取組

1 学習集団作り

ア 聞くための取組

めあてさいごまでしっかり聞こう

イ 話す取組

めあてさいごまではっきり話そう

- ・各学期のめあてを持ち、全校で取組を行う（2学期、3学期は、振り返りや児童の実態に応じてめあてを修正する）。
- ・めあてを達成するための具体的な方法を各クラス（または学年）で考え、月末に振り返りを行い、翌月に生かす。

2 基礎・基本の定着

ア 語彙を豊かにする取組

- ・読書量を増やす取組 「子ども読書の日」に関わる取組や読み聞かせ、図書委員会の活動、国語科での並行読書や学習の中での調べ学習を積極的に行う。
- ・音読・暗唱の取組 年間を通して音読・暗唱に取り組む。学年で取り組む。

イ 書く力をつける取組

- ・ノート指導の充実 学習課題・自分の考え・まとめや振り返りが位置づけられるよう指導を行う。「すてきノート」（ノート掲示や放送による良いノートの紹介）を行ったり、ノートを見合う時間をとったりして、よいノートの書き方を広める。

ウ 計算力をつける取組

- ・朝学習の取組 毎週金曜日に、計算プリントを行う。毎月1回程度、全校一斉で時間を計り、力の伸びを見取る。

エ 家庭との連携

- ・家庭学習しっかり週間 年2回程度、家庭学習を見直し、定着を図る。

オ その他

- ・学習規律しっかり週間 原則長期休業明けに学習規律を見直し、定着を図る。

5 研究の方法

- (1) 学年会を中心とした学習集団づくり、授業づくりのための共通理解・情報交換
- (2) 授業研究（重点①②に焦点をしばって整理会を行う）
- (3) ピンポイント学習会の実施
- (4) 日常的な授業の参観
- (5) 校内研修会の実施（外部講師を積極的に要請して学ぶ）
- (6) 実践研究会や研修会の実施（ブロック内の先生方や西南部中学校にも随時案内をし、ともに学び合う機会を持つ）

学校研究主題 「学び合い、高め合う子をめざして」

- ・自分の思いや考えを
すすんで表現する子
- ・友だちの思いや考えを
すすんで聴く子
- ・互いのよさを認め合う子

学習集団づくりの工夫

- ・自分の伸びを実感する子
- ・学びの良さを感じる子
- ・次の学習への意欲を持つ子

考えの確かさや変容が実感できる

授業作りの工夫

副題 ～「確かな学び」につなげる手立ての工夫～

基礎基本を押さえつつ、児童の「わかった」「できた」という達成感と「もっと知りたい」「もっと学びたい」という次への意欲につながる学び

重点① 課題に対して、一人一人に自分なりの考えを持たせる手立ての工夫

重点② 持った考えを広めたり、深めたりする手立ての工夫

【基盤となる日常的な取組】

1 学習集団作り

ア 聞くための取組

めあて

さいごまでしっかり聞こう

イ 話す取組

めあて

さいごまではっきり話そう

2 基礎・基本の定着

ア 語彙を豊かにする取組

・読書量を増やす取組

・音読・暗唱の取組

イ 書く力をつける取組

・ノート指導の充実

ウ 計算力をつける取組

・朝学習の取組

エ 家庭との連携

・家庭学習しっかり週間

オ その他

・学習規律しっかり週間